

秋の話題と博物館

山不作の年のきのこ展(平成23年9月25日~10月16日)



昨年はCOP10にあわせた特別展をしていたため、2年ぶりの開催となりました。次の友の会35年の歩み展をひかえ、期間は少し短めです。野生のきのこが並ぶことが人気のきのこ展なのですが、今年は肝心のきのこが極端に少なく、淋しいものになりました。きのこの相談や持ち込みも例年の1/10。展示室の中央の机には、硬いサルのコシカケのなまはばかりが場所を占有していました。

学校の博物館利用と水族館の博物館利用

- 10月6日 舟着小学校6年生(12+2名) 地層学習と化石採集ガイド
- 10月11日 東三河地区高等学校理科教育研究会の研修(6名)
- 10月12日 黄柳野小学校「きのこ観察会」(13+7名)
- 10月23日 碧南海浜水族館「きのこ観察会」(21名)
- 10月24日 東郷西小学校3年生(54+4名)



学習会「木地師の里の秋の植物」
(平成23年10月30日、くもり、17名参加)

設楽町の面ノ木周辺の植物を楽しみながら観察しました。標高は1000m以上あります。アサの原生林は300年以上の樹齢の樹もあり、倒木にはムキタケが出ていました。鳳来寺山では見られない植物やきのこに出会えて、うれし一日でした。

学習会「きのこを調べよう」(平成23年10月9日、はれ、35名参加)



コウボウフデ
(うでこき山で初記録)

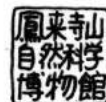
桜淵公園のうでこき山周辺でおこないました。41種が同定されましたが、約半数は硬質菌で、やわらかなきのこはわずかしかが見られませんでした。今年の秋は、こんな日が続いています。そういえばツツクボウシがまだ鳴いていました。まだ、夏のような気分になります。

全国博物館大会・石川県
(平成23年10月20~21日)

博物館法制定60周年記念大会が金沢市で開催されました。テーマは「地域と博物館」です。大会2日目の第3分科会では、小規模博物館の運営をテーマとして「鳳来寺山自然科学博物館の運営と実跡」について館長が講演しました。鳳来寺山麓にある小さな博物館の活動の姿をありのまま報告しました。全国の博物館関係者に当館を知ってもらうよい機会になりました。



はつなだり 10.15
2011.10



「領家帯の滝めぐり」ツアー
(平成23年10月23日(18名参加))

9月4日の雨で延期していた現地見学ツアーです。新城の地質を2分する領家帯にかかる滝を訪れました。初めてたずねる滝が多く、花崗岩の第一号で、学術委員の仲井先生の案内で充実の観察会になりました。



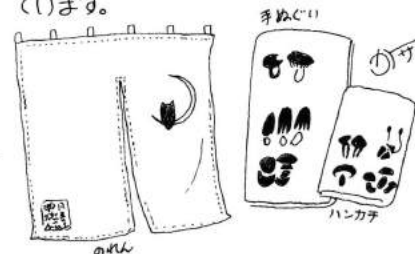
只持の不動滝

ジュニアナチュラリスト養成楽級・山の学校
「森のこびと教室」第3回「きのこの見方」
(平成23年10月16日、はれ、10+7名)

台風15号の被害で通行止めが続く国道301号線を避け、急ぎ博物館周辺でおこないました。ここでもきのこの発生は少なかったです。きのこ展の会場で、きのこの見方やおはたらきを学びました。

ミュージアムショップの品ぞろえ

人気のイタドリ杖は小椋さんが夏から準備をしてくれています。今、博物館職員と新商品開発に挑戦中です。手拭、暖簾、ハンカチなどの商品化を目指しています。定番の岩石、鉱物標本も充実させています。



ここにもいました!
(平成23年10月14日)

棚山直下の副川大双瀬の民家で「モモンカ」が見つかりました。水を張ったバケツに落ちたらしく、おぼれてしまったみたいです。

鳳来寺山だけではなく、隣の棚山でも生息していることがわかりました。空中は飛べると水中にはかたてのおようです。

はくぶつかんのキャラクター誕生

博物館の「キャラクターを作るぞ」作戦(平成23年4月発案)

この博物館にもかわいいキャラクターが欲しい!との館長の気まぐれな思いつきが発案することになりました。11月4日に作成発令。

完成目標はミュージアムフェスティバル(23日)としました。きびしい日程です。裁縫が得意な職員(福田)が持ち込んだミシンで羽根をぬうと、全女性職員が寄ってたかって、ぬいつけました。

ベースの服は大きなワンピース(夏私服)。頭はヘルメットに竹サルのくくりつけたものです。デビューの日が近づくと、協力隊員も加わってくれ、スピードアップ。(くわしくは友の会ブログをチェックください)最初のイメージ図とはずいぶん違った姿に仕上がりましたが、皆の思いがこもったコハズワの着ぐるみが完成しました。

名前を募集中です。コワかわキャラなので、私(館長)は「カハズワ」かなと思っています。



友の会35周年記念式典 (平成23年12月17日 59名出席)

澄みきった青空のもと記念式典が盛大に、そしてなごやかに開催されました。丸山会長、館長のあいさつの後、10年以上の長きにわたり会員になっていただいている方々に感謝状と館手作りの記念品をお渡ししました。表彰者を代表して会員歴25年の竹之内さんがあいさつ。この博物館で「仕事」ができて、本当によかったと心から思えるお話でした。来賓には市長、教育長、教育部長など市の代表と博物館学術委員と参列されました。市長さん、教育長さんからは35周年を祝うことばをたくさんいただきました。

はくぶつきたより No.152 2011.12



記念講演は学術委員の大平仁夫先生が講師でした。演題は「コムツキムシとすごした60年」です。占領下の沖縄、ボルネオ島への探検調査行、コムツキムシとの出会いなど、おもしろいエピソードを混ぜてのお話でした。



第Ⅱ部はバルコニーでパーティーです。紫黒米の入った紅白の餅つき、野生きのこ、イシシ、シカ、アタと地元野菜がたっぷり入った鍋。フジ引き大会もある盛りだくさんののたのしみとときでした。

第Ⅲ部は旧門谷小学校で懇親会。語りかはずみ、時間を忘れてしまうほどでした。

ミュージアムフェスティバル2011 (平成23年11月19日~23日、846人来場)

博物館開館48周年感謝祭です。友の会35周年とあわせて、協力隊員と共に盛り上げていただきました。メインの23日には丸山会長自らコハズワの着ぐるみを着て、デビューをかざってくれました。

学習会「城山周辺の岩石」 (平成23年12月4日 ほか 40名参加)

三波川帯の瓶害峠、黄柳野、蔵平、阿寺に出掛けて岩石を学びました。海嶺でつくられた海洋プレートがはるばる運ばれてきてできた岩石であることを、最新の分析結果を基に知ることができました。



雨に泣いたナイトミュージアム

11月5日(土)雨(7人)、19日(土)雨(中止)、26日(土)晴(45人)。今年のコハズワの鳴き姿の動画の上映を準備していました。しかし映したせたのは最終日だけでした。冷たい雨に干の灯も消えそうでした。

特別展「友の会35年の歩みと博物館」 (平成23年11月1日~24年3月4日)

昭和51年に発足以来35年の歴史を刻んできた友の会の歩み、そして博物館とのつながりを紹介しています。わずか75人からスタートして現在は670人の大家族になりました。なつかしい出席印やテキスト、はくぶつきたよりなども展示しています。



ガイドツアー、講座、会議

- 11月17日 JA文化講座(きのこについて)
- 11月27日 静岡県西部地区高校理科教員地学部会ガイドツアー(10名)
- 11月30日 岩倉小学校(6年40名)地層学習ガイドツアー
- 12月18日 博物館学術委員全体会(24年度事業の協議)協力隊による大そうじ大会(12名)



寒い冬でした



「郷土の巨樹・名木を訪ねる」現地見学会
(平成24年1月29日 14名参加。ほれ)

鳳来と新城地域の巨樹・名木を訪ねました。

樹種	名称	所在地	幹周	樹高	
スギ	傘杉	門谷	8.7m	63m	樹高日本一
スギ	若宮社の杉	門谷	7.03m	47m	市天然記念物
カヤ	黄柳野のかの木	黄柳野	5.88m	13.7m	市天然記念物
クスノキ	日吉の大楠	日吉	10.60m	20.7m	市天然記念物
ニッケイ		上平井	3.27m	12.6m	
タブノキ		横川	5.16m	14.5m	
ムシキ		大宮	4.64m	14.1m	

_____は、今回簡易測定器で計測した値です。
市内には立派な樹がまだまだあります。次回は作手方面を計画します
参加者より一句「齡重ぬ 峡の傘杉 注連飾」

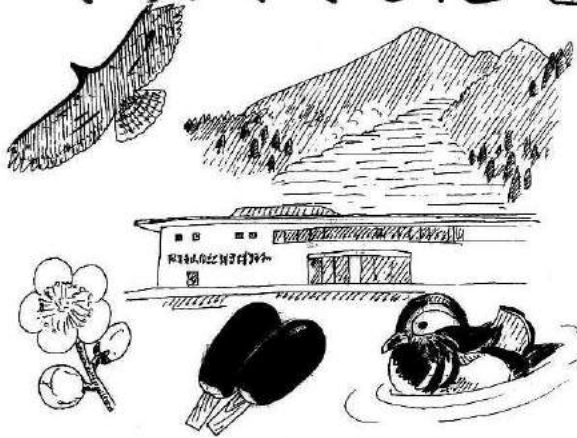


はなごもり No.153
2012.3

地層学習は冬がいいです

小学校6年生になると、理科の授業の大地のつくりで、地層や化石について学びます。博物館では展示標本の他に、裏山の崖で直接地層の露頭を観察することができます。さらに館外へ足をのびせば、化石採集の体験や地層の続きを観ていくこともできます。こんな恵まれた地域で学ぶ市内の学校が授業で利用してくれました。

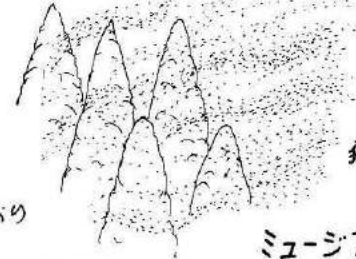
- 1月13日 鳳来西小学校 5-6年生 8+2名
 - 1月25日 黄柳野小学校 5-6年生 5+2名
 - 2月1日 連谷小学校 1-6年生 5+3名
 - 2月16日 海老小学校 5-6年生 9+2名
 - 3月1日 菅守小学校 5-6年生 4+2名
- 冬は樹木が落葉し、草も枯れているので、地層がさく見えます。それに虫やへびも出てきません。ハンマーをふるっていいのはホカホカです。



内容てんこもり「奥三河自然満喫ツアー」 (平成24年2月25日・26日、44名参加。<もり)

県の生物多様性セミナーを友の会で企画しました。募集から6日で定員になる人気でした。友の会役員が中心になって運営。1泊2日の行程は盛りだくさんの内容で、参加したみなさんは、奥三河の自然をまじり満喫していただけたと思います。

- 25日コース 桜沢公園でバードウォッチング→博物館ガイドツアー
→山びこの丘周遊散策(クマタカが見れました！)
山びこの丘宿舎で星空学習会(曇り空のため)
 - 26日コース オシドリノ里 → 四谷千枚田の見学と五平餅作り
体験(棚田米の五平餅と赤味噌が絶品でした。
→川売の梅の里散策(クマタカがここで出現)
- 2日間にわたるクマタカが迎えに来てくれ、感激。



スギ花粉飛散(平成24年3月7日)

3日間続いた雨の後、大量の花粉が11ヶ所に飛びだしました。山が黄色くすみ、博物館の屋上では、きな粉をといったような水たまりができていました。

ミュージアムグッズ製作



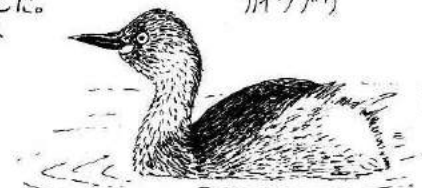
帆布製のトートバッグ2種類を追加しました。モモンガ、カワセミ、ヘーテング、タケ、コハスズ、カワセミアマゴなどをプリントしたかわいいバッグです。当博物館のオリジナル商品になります。ミュージアムショップで購入できますので、チェックしてみてください。



水鳥を観察しよう(平成24年1月15日、<もり、21名参加)

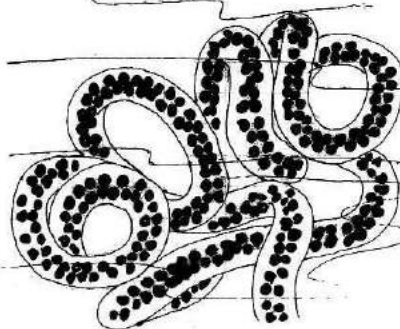
「この冬は鳥が少ない」と野鳥観察をしている人たちの会話を、よく耳にしました。鳥が観られるのか心配でした。昨年に続き桜沢公園の豊川沿いで実施し、今年は19種の野鳥を確認しました。昨年は35種でした。カワアイサ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、オシドリ、カイツアリトビ、キンクロハジロ、コガモ、カワウ、オナカガモ、ヒドリガモ、ヒドリガモ×アメリカヒドリ、セヨドリ、ツグミ、カワラヒワ、イカル、ハシボソガラス、ヤマガラス、モズ、やはり少なめでした。

カイツアリ



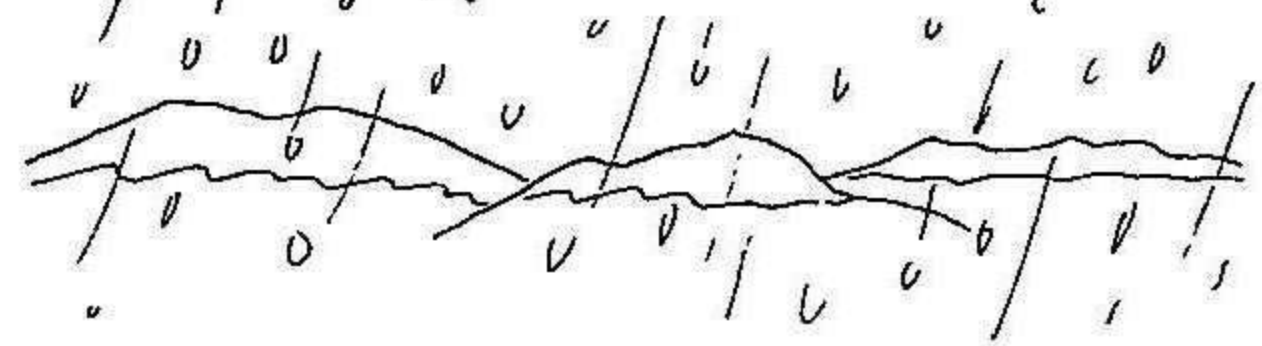
啓蟄の雨(平成24年3月5日)

鳳来寺山麓でこの日初めてアスマヒキガエルの姿を見かけました。翌日から雨が続き、ガエルの産卵の時期がやってきました。ヒキガエルやアカガエルは早春が繁殖期です。冷たい雨を待ちわびて、産卵します。3月11日に鳳来寺山に登山して確認したところ、医王院の隣、中谷坊跡の池(ここでモリアオガエルも産卵します)で産卵していました。



博物館と春のできごと

Bu po So po Bu po So po はおっかたどり No.154 2012.5



春の雪 (平成24年4月7日)

毎年3月末には満開になるエドヒガンもまだ八分咲きの頃、4月に入って2度目の雪が降りました。少し標高が高いところでは、山がうっすらと雪化粧。開花の準備をしていた植物たちは、さぞびっくりにしたでしょう。

この日は、湯谷、名号方面に博物館のチラシやポスターを配りました。三遠南信道路と新東名高速道路の開通で、多くの人目にとまることを願います。

新城一のヤマザクラ (平成24年4月21日)

新城の木に選定されたヤマザクラ。開花にあわせて調査に出掛けました。七郷一色のこのヤマザクラは、幹回り(目通)5.6m、樹高約14mの立派な樹でした。おそらく、市内では最大級と思われる。



市の鳥鳴き始める (平成24年4月21日)

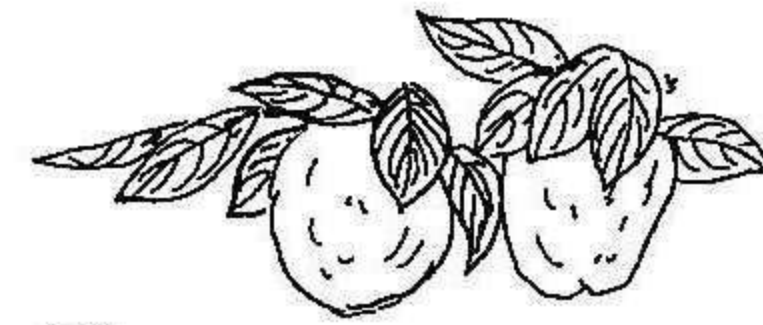
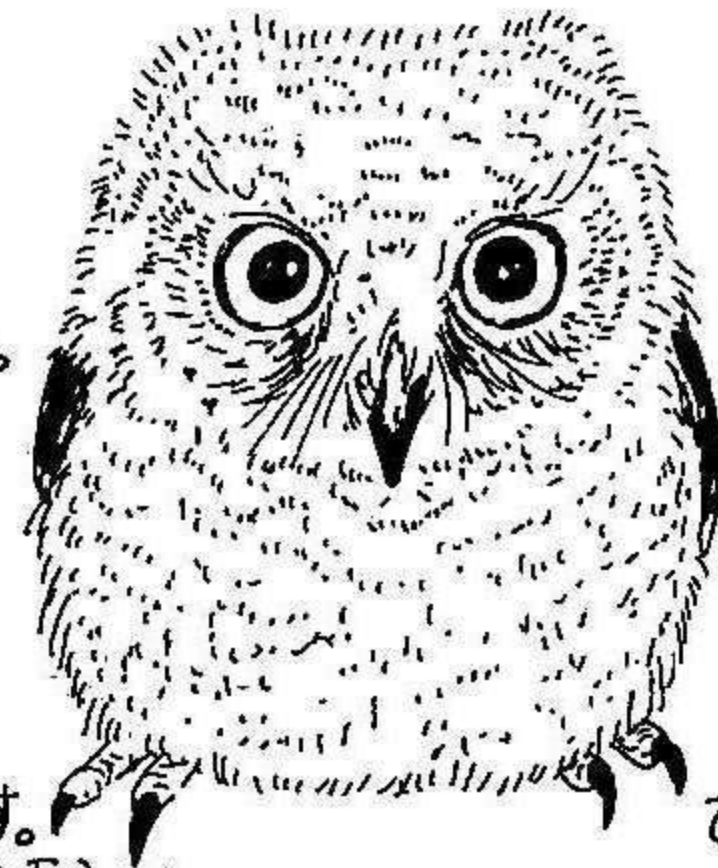
今年もコハスグがやってきました。初鳴は四谷で確認(小山さん情報)。鳳来寺山では、いつ鳴いてくれるのでしょうか。すでに2年間、声を聞いていません。



保護? 拉致? (平成24年5月26日)

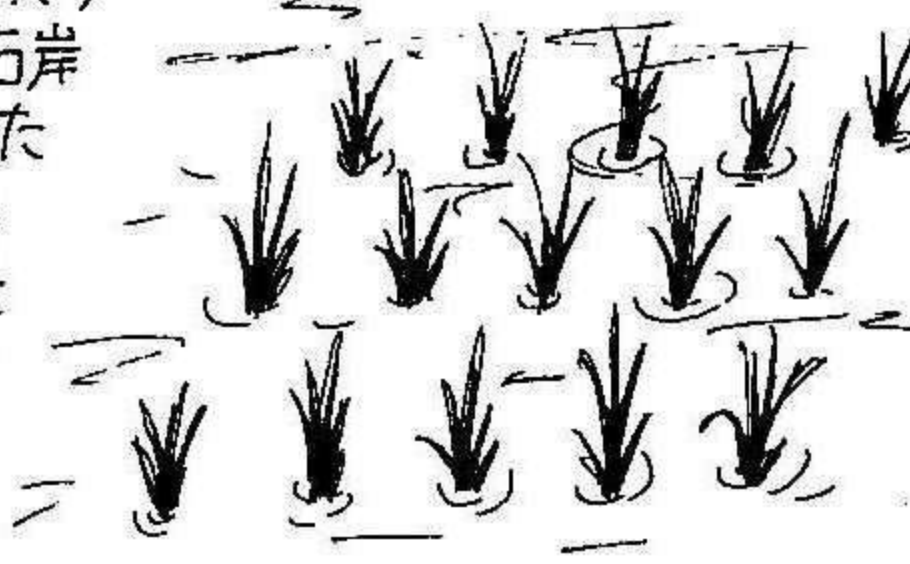
(平成24年5月26日)

全身がまだうぶ毛のオコハスグが持ち込まれました。宇連川右岸(豊岡)の道路でうすくまっていたそうです。自動車や野ネコから守るためでしたが、近くにいたので親からは、引き離してしまったことになりました。巣立ちの時期によくおこる事件です。



学習会「乳岩の春の植物を楽しもう」 (平成24年4月29日、32名参加)

この季節の乳岩の植物観察は初めてです。当日は暑いくらいでしたが、春先の低温の影響が楽しみにしていたホソバシヤブゲは、まだ咲きはじめていた。健脚、ふつう、ゆっくりの3コースに分かれて観察に出発。宇連ダムから回り込む健脚組は、翌日は痛脚になったと思います。



市のカエル産卵始まる (平成24年5月18日)

今年は雨が少なく、心配しましたが、昨年より5日早く産卵がはじまりました。いつもの鳳来寺山ではなく、養の真増寺の横の水田が今期初の記録です。

春のミュージアムフェスティバル (平成24年5月3日~6日)

ゴールデンウィーク中の4日間、友の会員による博物館協力隊の支援を受けて開催しました。春は初の試みです。期間中818名の来館がありました。イベント会場での運営、駐車場で声掛け、そしてフェスティバル参加など、盛りあげていただきました。



飼育展示復活 (平成24年4月30日~)

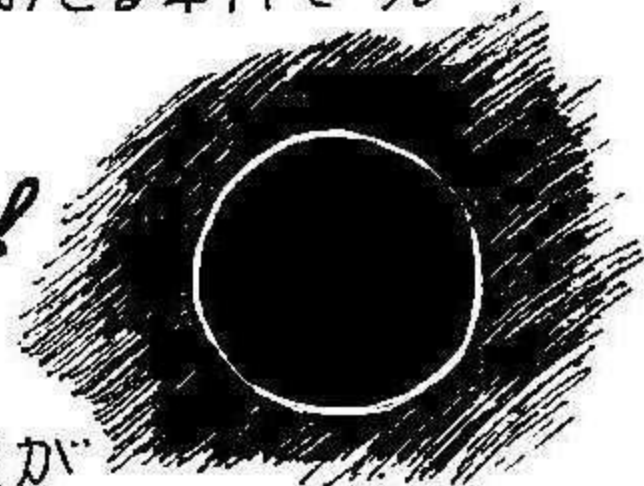
(平成24年4月30日~)

2年ぶりのヘビ展示です。ヘビ好きの小椋(友の会前会長)さんが臨職6号として、この春から来てくれたので実現しました。今回は職員立ちあいでも触れるので、子どもたちに大人気です。でも他の職員は誰も交替することができません。

金環日食見えた! (平成24年5月21日)

(平成24年5月21日)

厚かった雲がサーと去り、青空がひろがりました。月がゆっくりと太陽を横切り、17時30分頃、ひたりと重なりました。カメラに遮光メガネをかけて撮影できました。



ジオパーク探索「棚山の地質探検」 (平成24年5月20日、40名参加)

友の会行事として開催しました。鳳来寺山の北側にある棚山は設楽火山岩類でできています。梅の里で有名な川売の集落から、林道沿いの露頭を観察しました。凝灰岩、デイサイト、流紋岩、安山岩、松脂岩を直接触れながら確認することができました。いつとながめていた山の成り立ちがわかり、身近に感じられました。



自然史博物館の裏方と動物園見学 (平成24年5月27日)

41名で豊橋市自然史博物館におじゃましました。バックヤードを見学し、資料の収集と保存の大切さを学びました。続いてセキツイ動物の骨の構成について講義を受けた後、展示室へ。古生物の骨格標本を目の前にして、骨のつくりと役割を教わりました。筋肉のつきかたで体の動きが決まります。ついで、自分の体をさわって筋肉の位置と骨の確認をしていました。



体験の季節

障子岩岩脈(市指定天然記念物)調査 (平成24年6月7日)

宇連タムの奥の砥石沢のさらに奥にあります。この日、仲井豊先生と職員2名(加藤、小原)で現地へ向かいました。登山開始から2時間。眼前にあらわれた岩脈に息をのみました。総延長2.9km、中約10mの大岩脈です。国の天然記念物「馬背岩」(湯谷)をはるかにしのぐ規模です。汗して登った者だけが味わえる雄大な景観です。



博物館ガイドツアーが人気です

博物館の見学と野外観察をセットにしたツアーです。

ガイドブックと入館券で、誰でも利用できます。

- ◎ガイドツアー(ガイドブック+入館券)
 - ・鳳来中部小学校(新城市)6月14日
 - ・東陽小学校(新城市)6月18日
 - ・神戸小学校(田原市)6月22日
 - ・鳳来中学校(新城市)6月29日
 - ・船着小学校(新城市)7月10日
 - ・ボーイスカウト(浜松第9団)7月15日
 - ・ボーイスカウト(浜松第22団)7月21日
 - ・佐久間・浦川小学校(浜松市)7月13日
- ◎館内ガイド(入館券)
 - ・鳳来西小学校(新城市)5月25日
 - ・白木中学校(北名古屋市)6月14日
 - ・磐田小学校(磐田市)6月15日
 - ・後教大OB・OG一行 7月1日

はっかだり No.155
2012.7



ホウライジユリ咲く (平成24年7月24日)

表参道沿いのヤマユリがみごとなた花を咲かせました。地元の人たちが大切に保護し、最近、株が増えてきました。ホウライジユリの地方名があります。鳳来寺山一帯でこの花が咲きかおってほしいです。今年は何年ぶり/週間ほど開花がおそくなりました。

ジュニアナチュラリスト養成楽級「山里学校・生きもの博士」教室 第1回「昆虫とクモのからだのしくみ」 (平成24年6月17日、10名+親5名参加)

草地に出かけて、昆虫やクモを採集。それぞれの体のつくりを、顕微鏡も使って、じっくり観察しました。



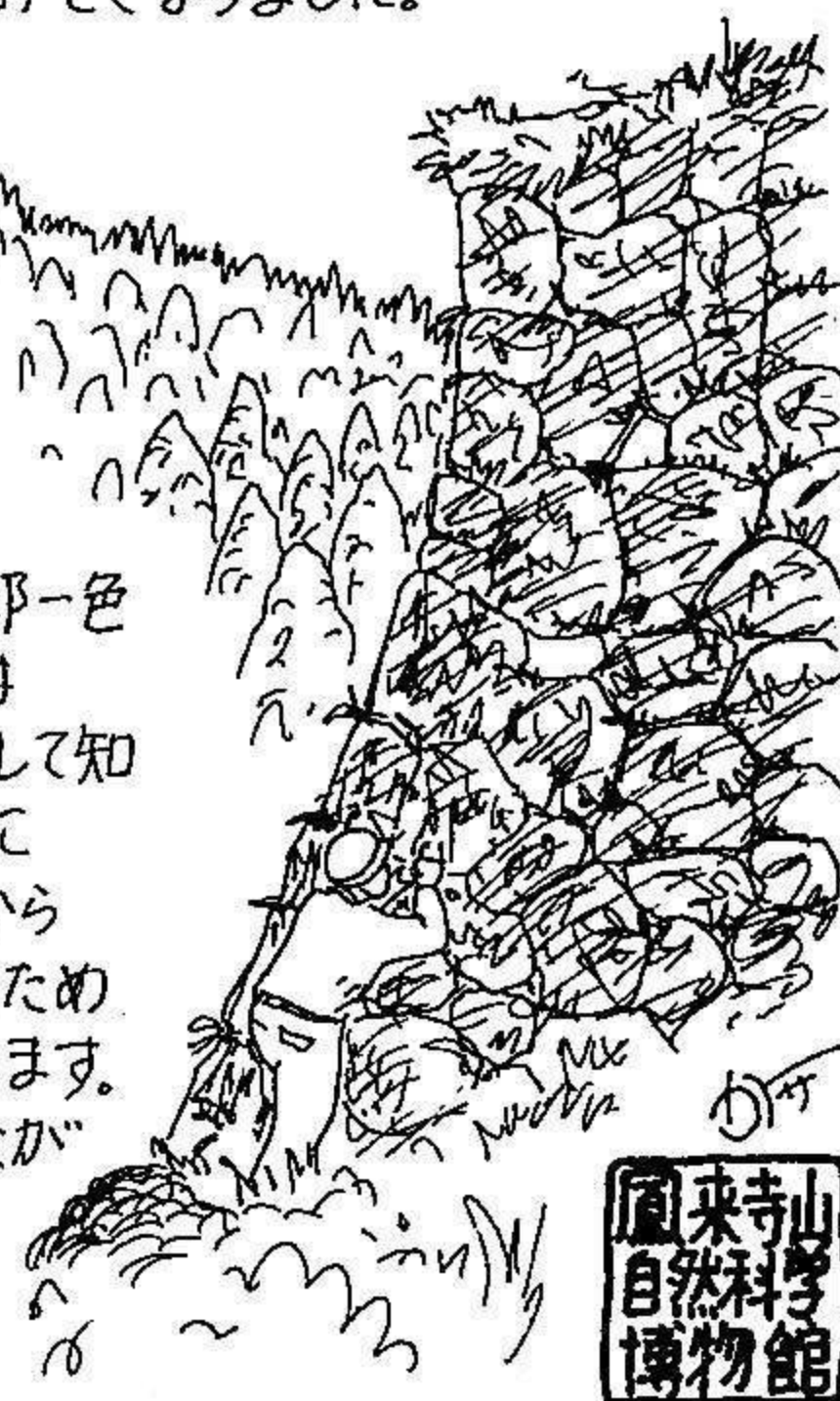
子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座 (平成24年7月29日、19名参加)

今年から大人も参加できるようになりました。子どもにかえりたい。子どもの心を持った大人限定です。みんな昔は子どもだったんですよ。この日の講座は「昆虫のふしぎ」でした。



昆虫調査 (平成24年6月6日)

大平仁夫先生の昆虫調査に同行しました。鳳来寺山、中宇利、七郷一色と巡りました。七郷一色はクロツバメシジミの生息地として知られています。小学校の石垣に食草のツメレンゲと共に大島から移植し定着させました。保護のため市の天然記念物に指定されています。ツメレンゲを護ってきた小学校が廃校になり、株が減少するなかでクロツバメシジミも数を減らしているようです。



キヌカサタケ遊舞 (平成24年6月20日 西入船)

久保さん宅の庭に「キノコの女王」とも言われるキヌカサタケが大量に発生。連絡を受けて駆けつけると、庭全体に踊るようにレーズのスカートをはきかけていました。朝の9時くらいまでの間にマントがひらききり、優美な姿を見せてくれます。美味ですが、クレバは臭い。です!



学習会「化石採集と瑞浪市化石博物館見学」 (平成24年7月8日、36名参加)

設楽層群と同年代の地層が瑞浪地方にみられています。化石博物館の見学の後、「へそ山」の地層を観察し、最後は川原で化石を存分に採集しました。化石がたくさん採れて、リュックが重そうでした。



博物館体験の夏



傘杉までのガイドツアー

8月の博物館ガイドツアーは、傘杉まで巡るコースが3件でした。

日本一の樹高を誇る名木は、誰もが感動してくれます。

- 8月2日 海翔高校(20名)
- 8月8日 モロロジ研究会(29名)
- 8月30日 一般家族(3名)



学芸員実習(平成24年8月13~19日)

市内出身の大学生、西村くんが学芸員実習にやってきました。地球科学を専攻しているので、岩石、鉱物が大好きです。

この東三河地方は中央構造線をはさんで、領家と三波川の変成帯があり、さらに設楽層群の堆積岩と火成岩があり、興味はつきません。

いきいき、わくわくしているのが伝わってきました。夢をかなえて欲しいものです。

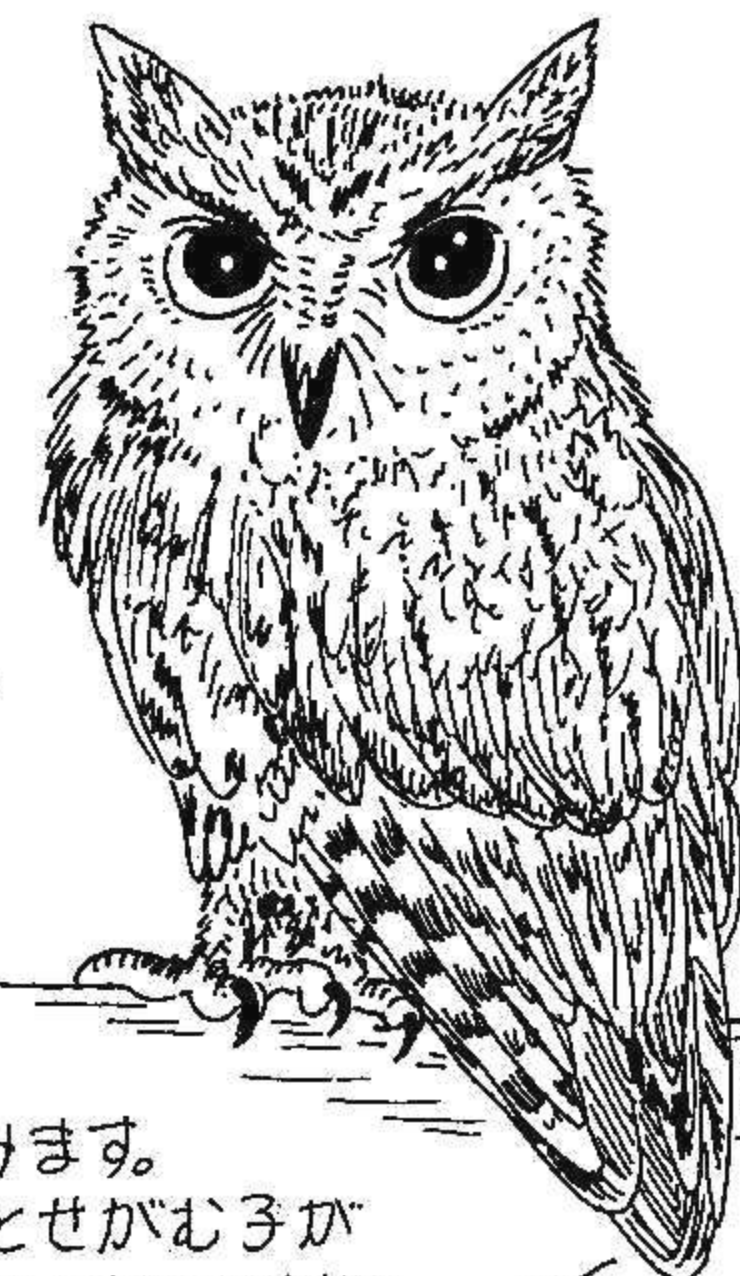
すいぶん大人びて…(平成24年8月31日)

今春、ヒナで保護(?)されたオオコハス7羽が、すいぶん立派になってきました。

白い羽毛はほとんど消えて、もう成鳥と変わらないほどになりました。

(No.154参照)

いつ放鳥しようかと悩みます。腹が減ると「ヒョー ヒョー」とせがむ子が自然界でたくましく生きのびていけるのかなあ



中学生の職場体験

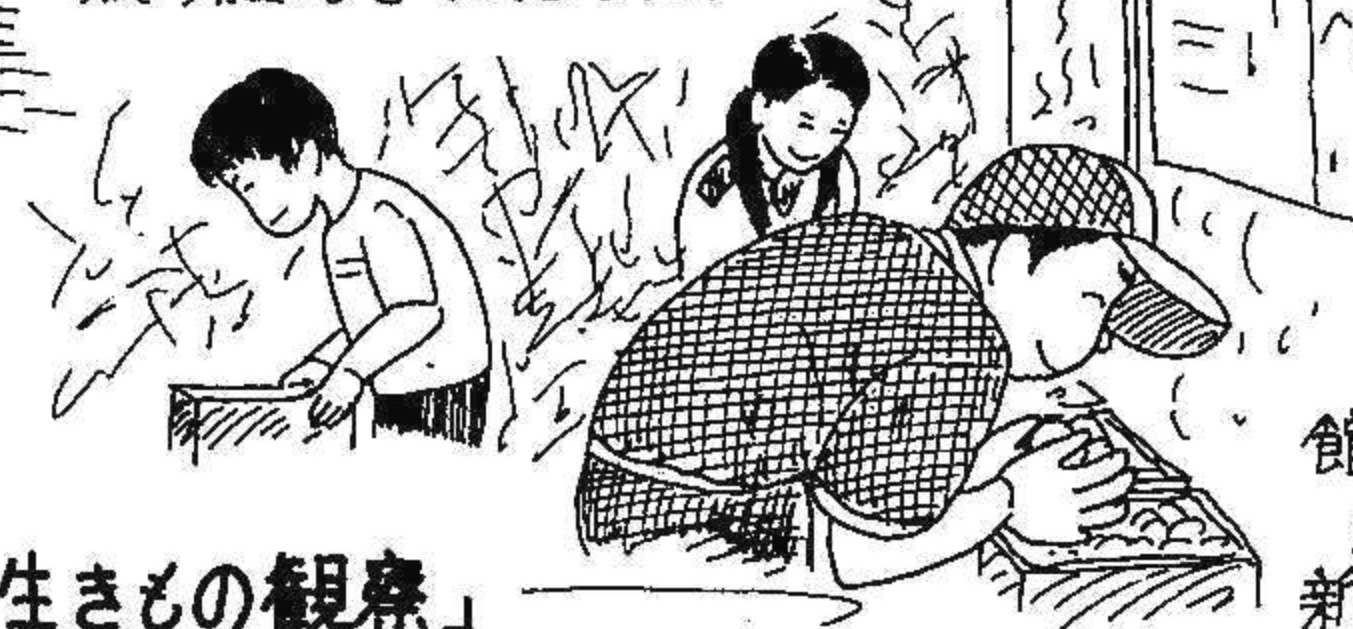
学校の夏休み期間中、市内の中学生が職場体験で博物館にやってきました。

8月6~7日、千郷中学校:影目、古瀬、山崎くん

8月21~23日、鳳来中学校:井出、今泉くん

8月21~24日、新城中学校:金田さん

恒例の岩石割り、そうじ、ラベル作りなど、博物館の日常の仕事を体験してもらいました。みんな石が好きで、汗だくになって岩石割りに取り組んでくれました。



学校の先生の博物館体験(平成24年8月10~12日)

市内開成小学校教諭の原先生が、教員10年目の社会体験研修で、博物館の仕事を体験することになりました。岩石標本作りや、古い展示パネルの更新、庭木の手入れもやってもらいました。

合宿学習会

「七郷一色の昼と夜の生きもの観察」(平成24年8月4~5日、27名参加、晴れ)

旧七郷一色小学校に泊まって昼間と夜間の生物たちを観察しました。日中は夏明川の魚やカエル、トンボ、チョウなどを観察。日没後はライトトラップで光に集まる昆虫+天体観察もしました。翌早朝のバードウォッチングは自由参加でしたが全員出席。ニホンサルがでむかえてくれました。

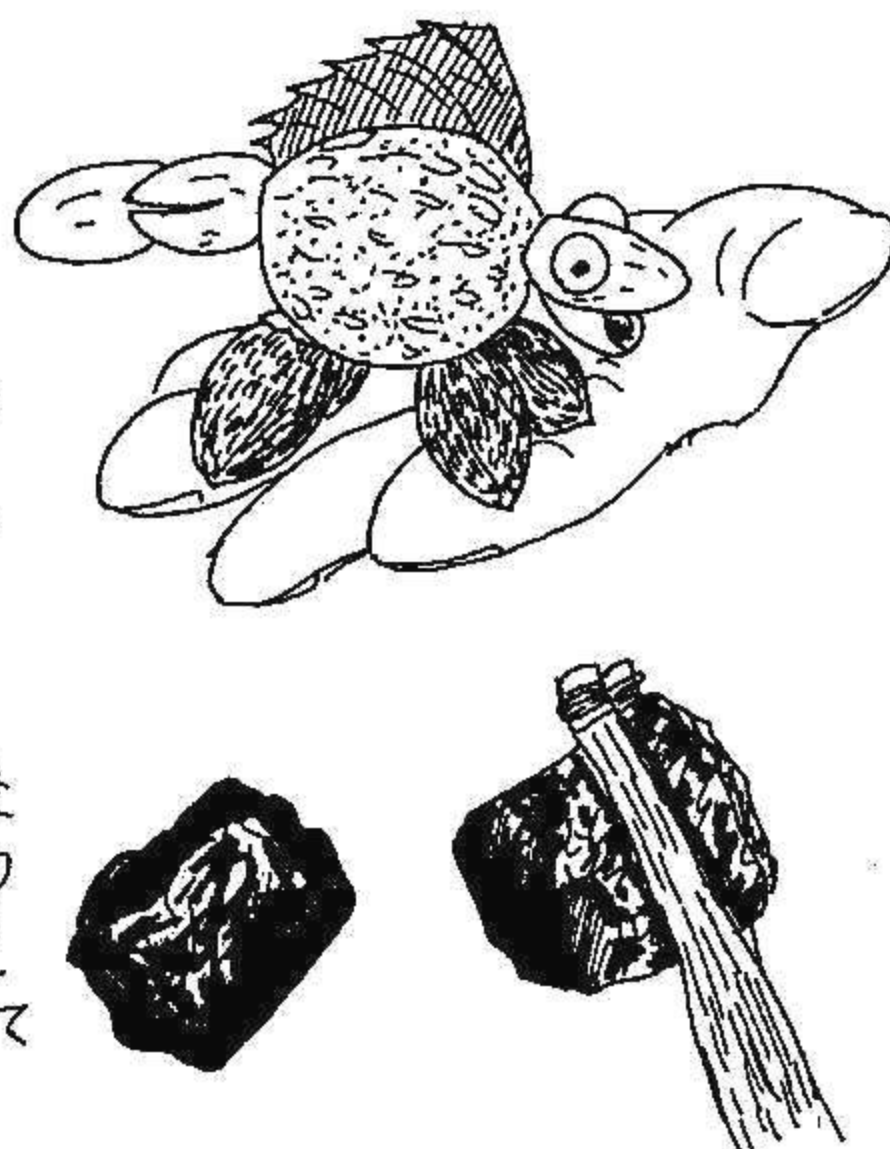


中学生ボランティアと参道そうじを実施(平成24年8月21日)

鳳来中学校1年生のボランティア活動と合同で、博物館協力隊と有志が、鳳来寺参道の石段そうじを行いました。

仁王門から上を博物館が担当。昨年にフツフツの活動です。

秋には旧鳳来寺高校から引きついだ参道そうじを新城高校生が予定しています。そうらも参加していきたいと思っています。



子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座

- 8月19日「木の実でオブジェやアセサリーを作ろう」15名参加。松ぼっくりや小枝、カボチャの種など、身近な材料で作品をつくりました。子どもになりたい大人たちは本物の子どもたちの創造力に脱帽。みなさん、いい顔でいい作品をつくっていました。
- 8月26日「石で道具を作ろう」16名参加。下呂石(安山岩)や玄武岩を利用してナイフとオリをつくりました。今年は磨製石器に挑戦。ナイフとオリでは刃の角度を変える必要があります。実際に草を切ったり、木を切ったり切れ味を試しました。昼の休憩もそこそこに刃を磨きました。

先生のための博物館の日 2012 in 豊橋(平成24年8月22日)

今年は豊橋市自然史博物館で開催されました。昨年は蒲郡。学校の先生と博物館をつなぐ様々な内容について、博物館側から提案をするものです。県内外の8館がブースで出展しました。

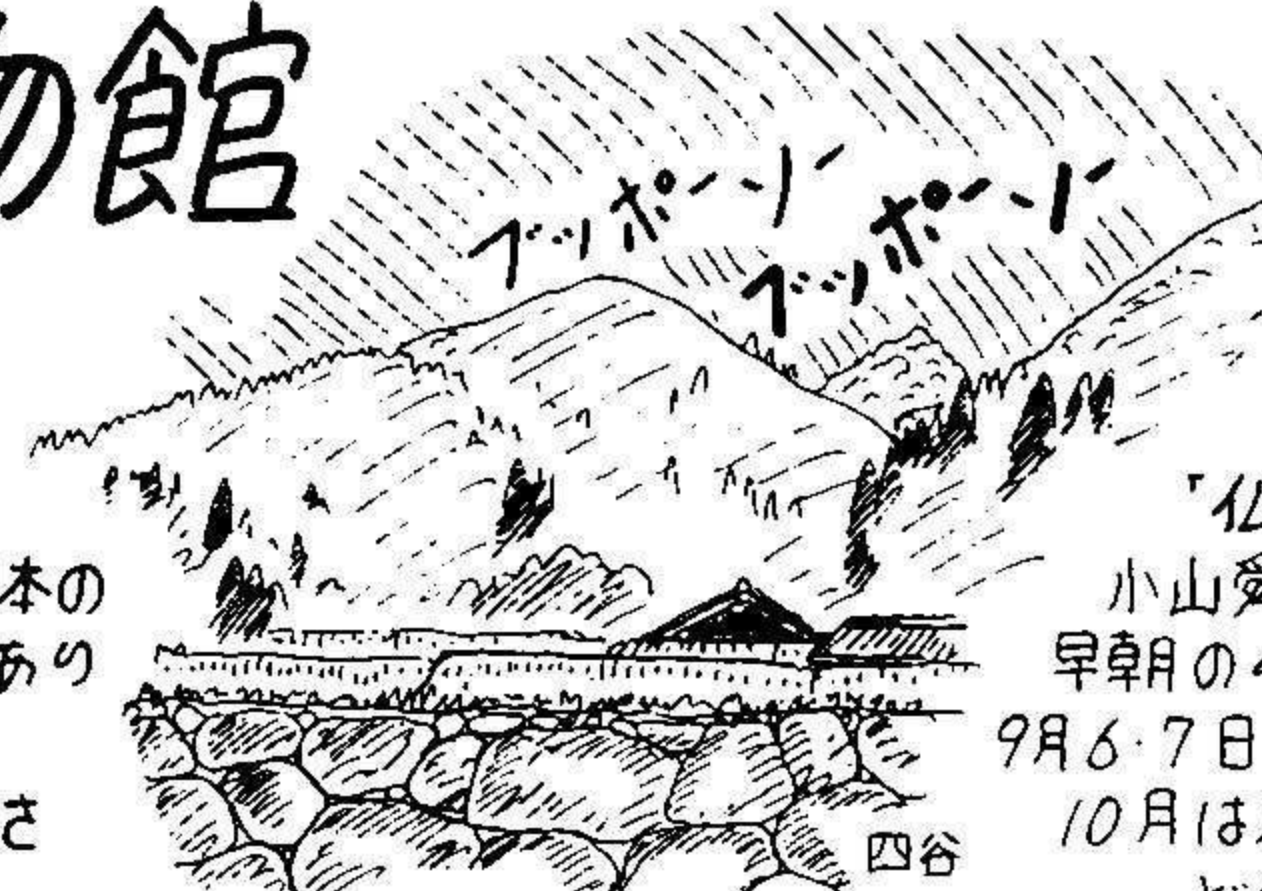
当館は「ネイチャーランドしんしる」のテーマで、フィールドと博物館を一体にした利用の提案です。



夏から秋への博物館

夏の特別展「ネイチャーランド新城」展終了
(平成24年7月21日～9月2日、1,596名見学)

新城市には国指定天然記念物6件、県指定が5件、日本の百選が9件あります。こんなところは、国内もそんなにありません。全国に自慢したいです。
今回は、そんな指定物の他に新城の自然のすばらしさを紹介する展示をしました。



秋の「仏法僧」
(平成24年9月12日)

「仏法僧が鳴いていますよ」と学術委員の小山舜二先生から連絡が入りました。早朝の4時40分～50分頃に鳴いていたそうです。9月6・7日の早朝も鳴いていたとのこと。10月は移動の季節。旅立つ前の鳴き声にはどんな意味があるのかなあ。

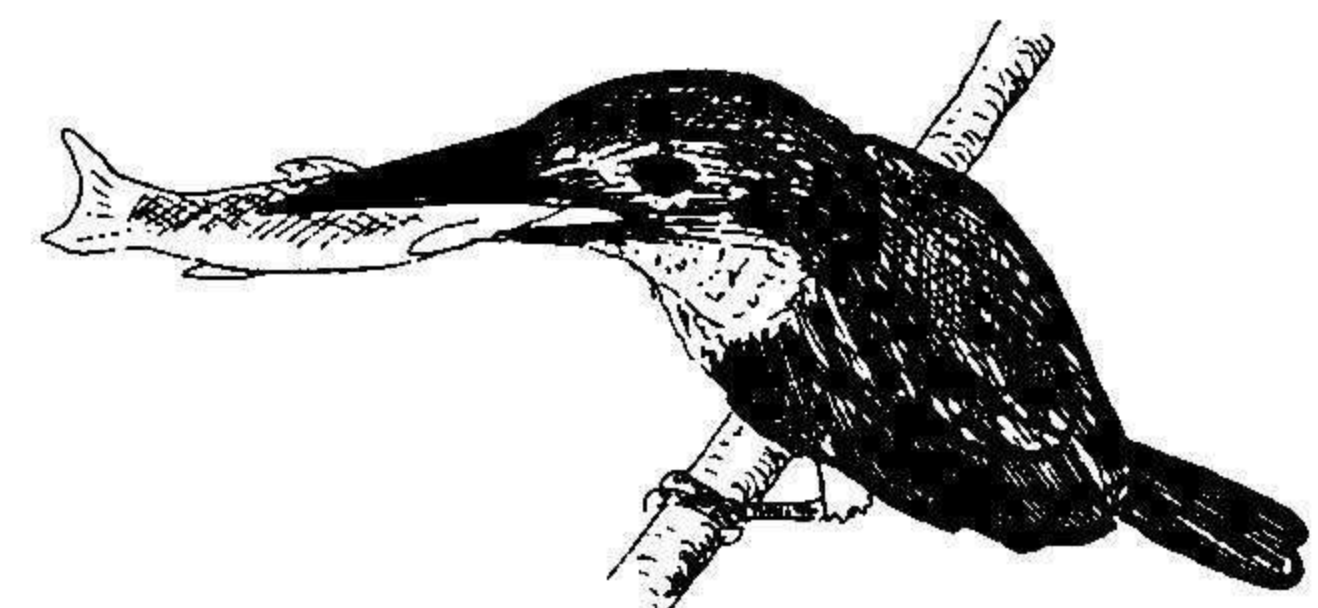
はつなごり No.157
2012.9

アサダ 知られざる珍木
(平成24年9月10日)

初めて聞く樹の名前です。誰かの名字みたいです(名の由来は不明)。温帯の山地に生える落葉高木で、新城市内には珍しく、しかも樹高24.9m、目通1.6mの大木です。
それを知った地元の方が、周囲の竹やぶを整理して見えやすくしてくれました。

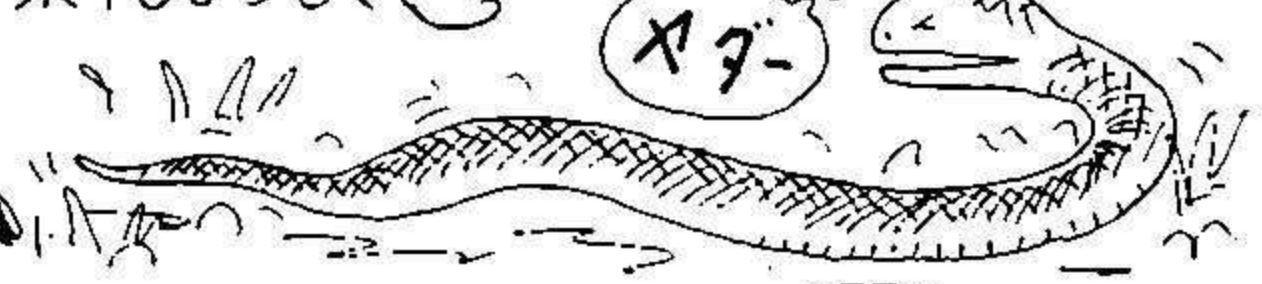
まっ赤な鳥が落ちていました
(平成24年9月3日)

アカショウビンが能登瀬で保護されました。外傷は見あたりませんが、ひどく衰弱していました。
川魚やトカゲ、ヘビなどの餌を与えて元気に回復したかに見えましたが、3日後に死んでしまいました。



お疲れさまでした(平成24年9月)

夏休み期間中、人気だったヘビたちが役目を終えて、野山へ帰ってとらいました。来年もよろしく♡



ネイチャーランド / 屋根のない博物館ガイドツアー
(平成24年9月9日、15名参加)

今回のテーマは「作手の巨樹・名木を訪ねる」でした。作手地域にある国の天然記念物のコウヤマキや古宮の大ヒノキ、文殊山のフナなど8ヶ所を巡りました。
風雪に耐えた老木たちをじっと見あげていると、なんだか声が聞こえてくるような気がしました。



講演とセミナーを行いました

9月4日「2012生物多様性セミナー(ガイドツアー)」
愛知県環境保全課主催(40名)
9月13日「山津波について」玖老勢・副川地区(20名)
大石の地名がある玖老勢でおこなわれました。道路脇にある松脂岩の巨石が地名の由来です。背後にそびえる棚山から土石流で運ばれたと考えられています。



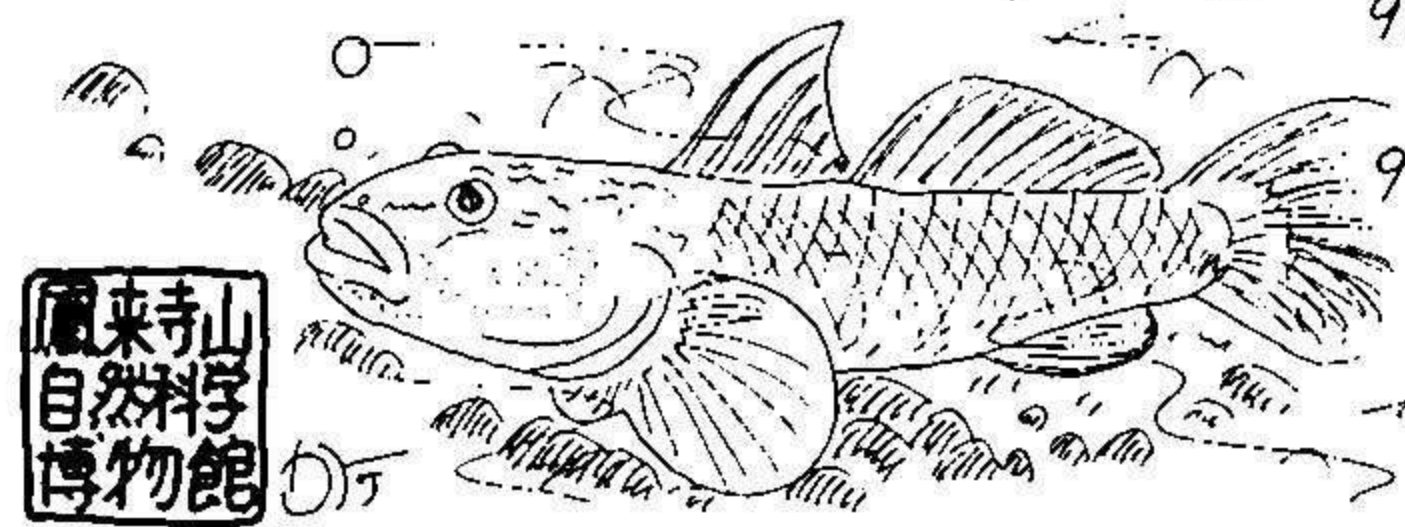
きのこ展開催(平成24年9月29日～)

毎年恒例の特別展です。昨年は雨が少なく、不作の年でした。今年は期待を持って開催しました。かれこれ20年以上もおこなってきたので、地域の人たちもよく知っています。野生きのこを見る目がそなわってきたのか、持ち込みの相談件数は、25件でした。



ジュニアナチュラリスト養成楽級
山里学校・生きもの博士教室
「魚をしらべよう」
(平成24年9月1日、11名+7親)

8月12日の大雨・洪水警報で延期したため、夏休み終了2日前になりました。博物館の前を流れる音為川で、魚の観察と採集をした後、学習室でさらに詳しく観察しました。
魚のスケッチでは、うろこの数もかぞえました。こんなにじっくり魚を観察したのは、初めてだろうと思います。



鳳来寺山
自然科学
博物館

博物館の秋 あれこれ

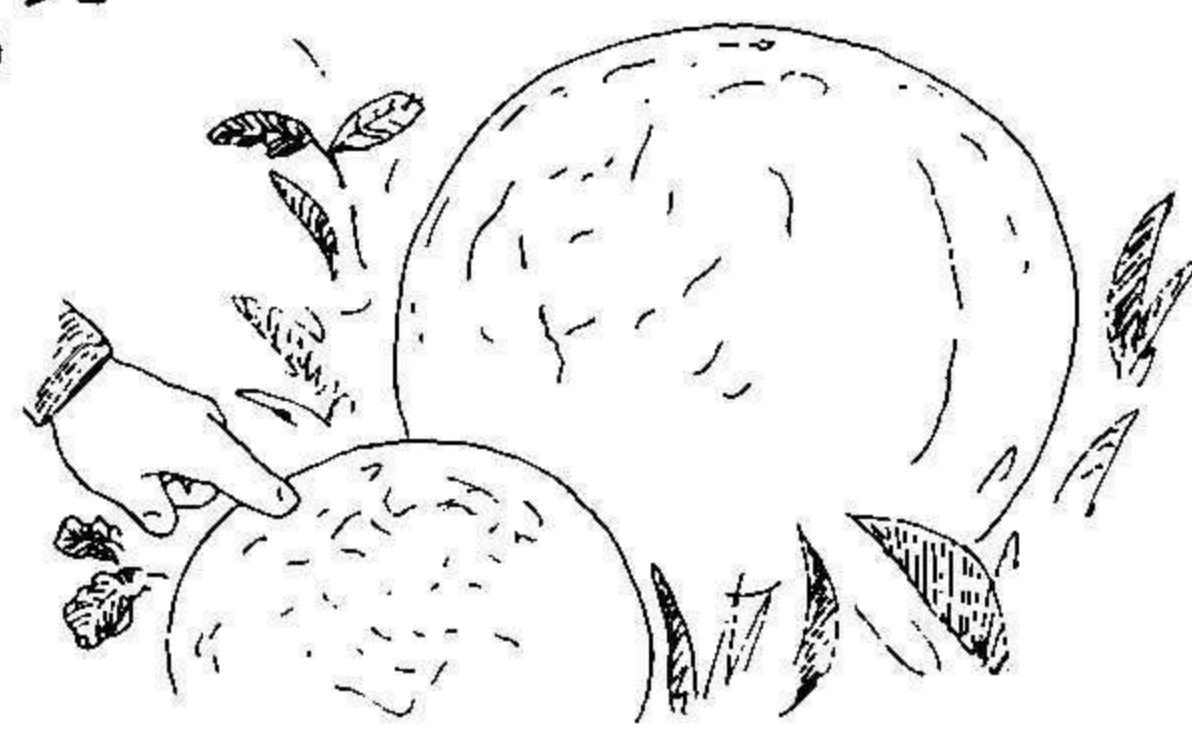
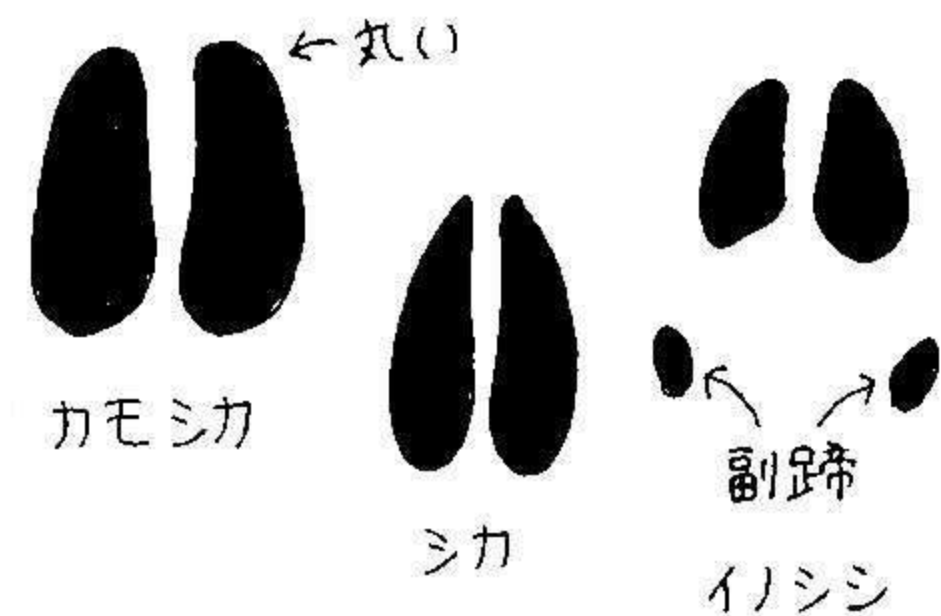
野外学習会「きのこを調べよう」
(平成24年10月7日、34名参加)



久しぶりの博物館周辺での開催となりました。山には期待したほどのきのこの発生がないようでした。しかし、そこはきのこ好きの人たちです。84種のきのこが採集され、観察できました。

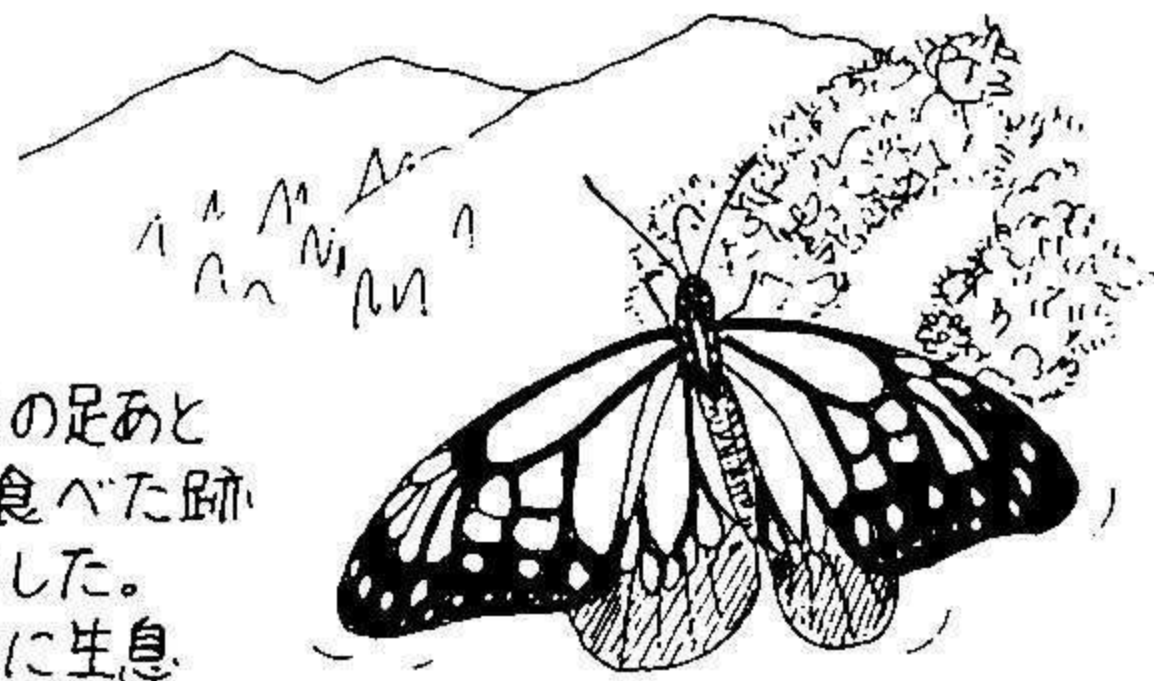
ジュニアナチュラルリスト養成楽級
山里学校・生きもの博士教室
「動物のあしあとをしらべよう」
(平成24年10月28日、13名+7親参加)

最後の授業です。午前中は野外で実際の足あとや食痕をさがしました。ニホンカモシカの食べた跡やイノシシが掘りかえた跡が見つかりました。午後は館内の展示を見ながら、この地方に生息する哺乳類の生態について学びました。



畑にバレーボール?
(平成24年10月3日)

富岡地内の畑のすみっこに白いボールのような巨大きのこが発生しているとの情報で、出かけていきました。予想どおりオオコノハスグでした。近くの八名小学校の先生達がおおせいで見に来ました。直径28cm。大きなものは50cmにもなります。



渡りをするチョウ
(平成24年10月20日)

きのこ展用の標本を採集するために山に出かけると、たびたび出会います。アサキマダラは、南西諸島や台湾の間を往復することで知られています。ちょうどこの頃は渡りの時期になります。

緊急呼び出し
(平成24年10月26日)



夜の10時24分、警備会社から、館長に電話が入りました。博物館で緊急事態発生かとドキドキしました。「フクロウが館内を飛びまわっています!!」すぐに捕えに来てください!!」かけつくと10月22日に保護されたオオコノハスグが入っていたダンボール箱をやぶって逃げ出したのでした。

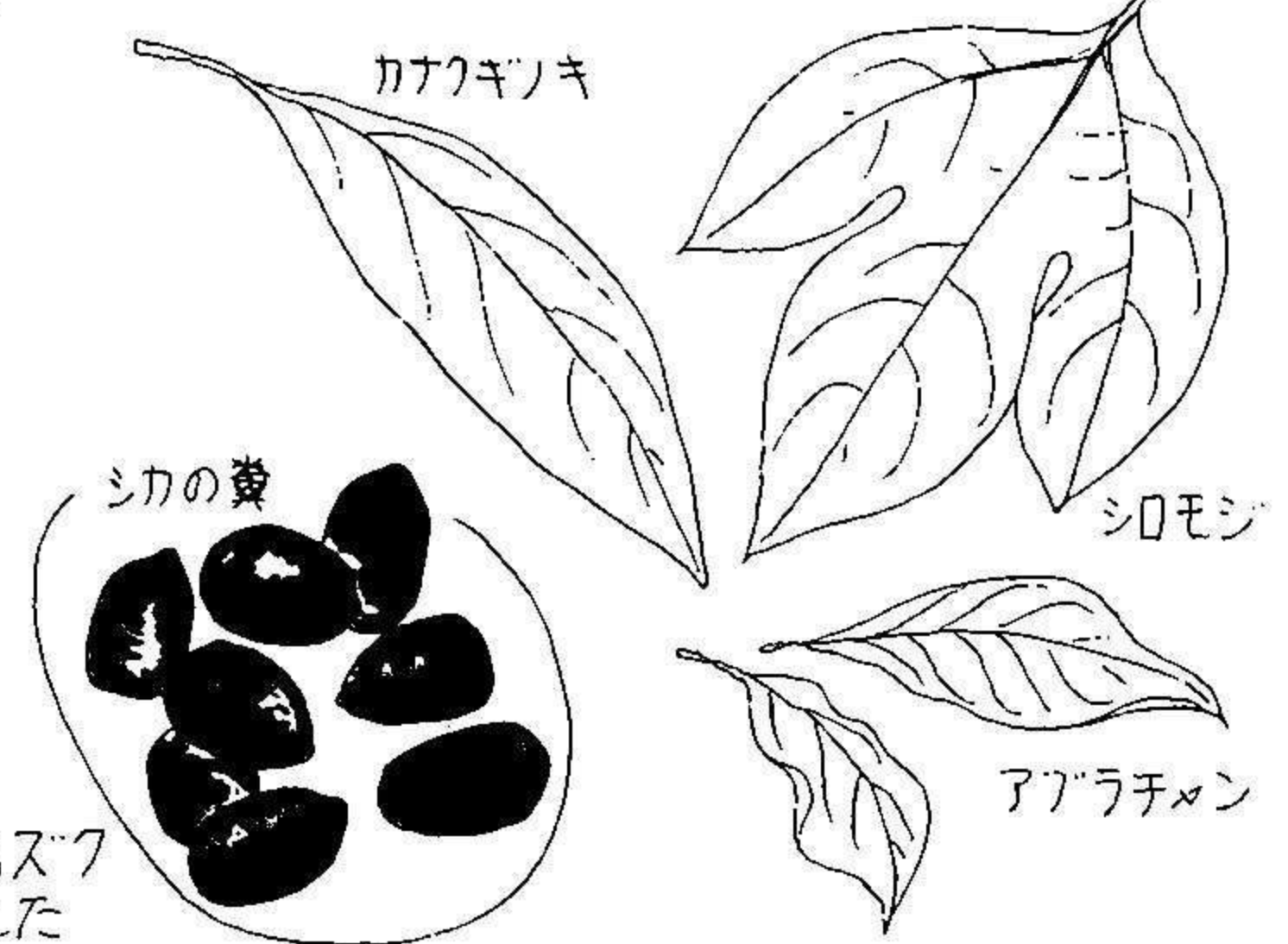
おさめがせなオオコノハスグでしたが部屋をあらした(糞を落としたり)のが人ではなくて安心しました。しかし、緊急出動した警備員さん、ご迷惑をおかけしました。ごめんなさい。脱走するほど元気になったオオコノハスグは、10月28日、みんなに見守られて、放鳥しました。

秋の観察会・ガイド・講座など

- 10月10日 黄柳野・山吉田小学校合同学習
「きのこを調べよう」(88名)
「地層学習」(29名)
田峯・清嶺小学校理科学習
「地層について」(21名)
- 10月17日 博物館ガイドツアー(一般家族3名)
- 10月19日 新城市社会教育審議会視察(15名)
- 10月20日 新城市児童館まつり「出前講座」
「小鳥や身近な小動物」(40名)
- 10月23日 韓国慶北大学附属中学校
見学案内とカンパッチ作り(18名+5名)
- 10月25日 庭野小学校「地層学習」(9名+1名)
- 10月26日 東郷西小学校見学案内(49名+3名)
- 10月28日 碧南水族館「きのこ観察会」(28名)
- 10月30日 愛知県環境部環境保全課
新任職員研修(25名)
- 10月31日 棒原連絡協議会ガイドツアー(21名)

フクロウは行方不明! マタギ行方不明! スベテ記録がレタイマス!!

はつたのり No.158 2012.10



野外学習会「本宮山の秋の植物を楽しもう」
(平成24年10月21日、28名参加)

初めての観察地です。本宮山(789m)の山頂周辺の植物観察でした。クスノキ科のシロモジ、アブラチャン、カナクキノキなどが遊歩道沿いに連続して見られ、奥宮では立派なスギ林があります。又、林床にはエンシュウハクマが花を咲かせていました。背丈が非常に小さいのは、シカのせいです。まわりをよく見わたると、いたるところの植物が食い荒らされていて、みじめな姿になっていました。農作物だけではなく、自然の植生とシカの食害の影響を受けているようです。

きのこ展終了(平成24年10月31日)

晴天が続き、きのこの発生はいまひとつでしたが、乾燥標本作りには好条件でした。珍菌のカゴタケやコウホウフデと並びました。



秋と初冬の博物館



“自然芸術”鑑賞の窓

3階の展示室の両端の壁には、大きな額(窓ですけど)があります(1.27×1.37m)。そこから見える外の景色がまるで絵画のようです。春の新緑から冬枯れの雪景色まで、四季のうつりかわりを、日々、刻々と描き出してくれます。今年の紅葉は近年まれな出来ばえで、朝のそうじの手を止めて、つい見とれてしまうほどでした。春と秋が特におすすめです。来館の際には、3階まで足をのぼして、ライトの展示を鑑賞ください。

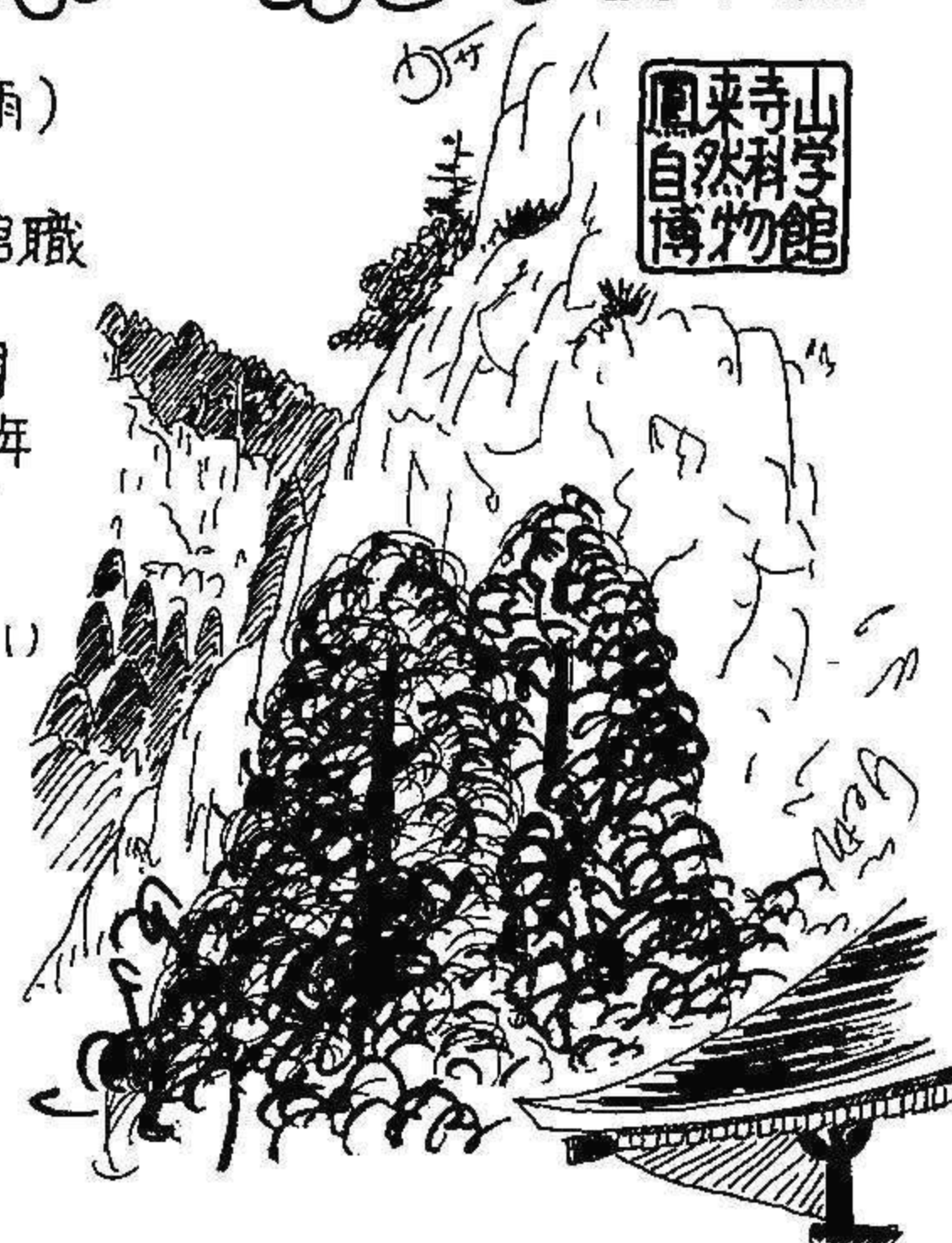
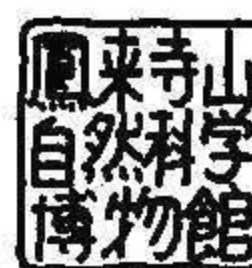


石段の参道そうじ

(平成24年11月14日、くもりのち雨)

博物館協力隊員(5名)と博物館職員(2名)で参加しました。鳳来寺高校生が開校以来95年間続けてきた奉仕作業です。平成23年に閉校となり、新城高校が跡を引き継ぎました。地元の人たちも加わり、とてもきれいになりました。

はなつたより No.159 2012.12



学習会「鳳来寺山の地質見学」

(平成24年12月2日、19名参加、くもりのち雨)

博物館の建つ麓の1700万年前の海の地層から出発し、鳳来寺山の鏡岩の基部まで、岩石を見ながら登山しました。石段が始まるあたりから1500万年前の活動による火成岩に、地質ががらりとかわります。ピッチストーン(松脂岩)、流紋岩、デイサイトで作られた石段や、火砕流の堆積したようすなどから、鳳来寺山や奥三河のダイナミックな大地の成り立ちを学ぶことができました。

ナイトミュージアム 17:00~20:00

(平成24年11月3日・土、24日・土)

今年で3年目です。3日が27人、24日は94人の来館がありました。(昨年は3日間で52人)

入館者には新城の石「ピッチストーン」をプレゼント。とても喜ばれました。プロジェクターを使ってコノハズクの映像を映し出し、メタセコイアの紅葉をライトアップしました。「千の灯火」のろうそくの明りもロマンチックで来館の多くがカップルでした。展示物は動き出してくれませんが、デートスポットとしてナイトミュージアムがいいかも。



ミュージアムフェスティバル

(平成24年11月23日~25日)

鳳来寺山もみじ祭りにあわせて、今年3日間開催しました。宝石さがしは人気No.1です。他にダーツ、ストーンポイント、シュロバッチ作り、屋外ミュージアムショップ、フリーマーケットも店びろきし、延べで740人が楽しんでいきました。協力隊員も延べで28名が出動。ありがとうございました。



「川原の石ころ図鑑をつくる」ツアー

(平成24年11月11日、12名参加 くもりのち雨)

第2回現地見学ツアーです。冬の特別展「川原の石ころで遊ぶ」展の体験版ともいえます。場所は市内桜淵公園と富沢の川原で行ないました。そこは、上流の領家、三波川変成帯と設楽層群の大地をけすって運ばれた変成岩、火成岩、堆積岩類のほとんどがそろそろ石ころの宝庫です。降る雨も全く気にならないほど熱心で、標本ケースにはとても入らない、つけどの石ほどのサンプルをかかえる人もいました。

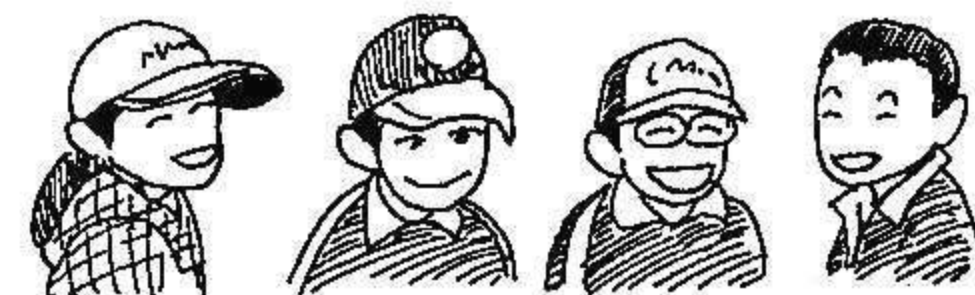
特別展「川原の石ころで遊ぶ」展開催中

(平成24年11月10日~25年3月31日)

ジュニアナチュラリスト養成楽級・川原の学校「石ころ教室」(平成19年)のころからやってみたい企画でした。豊川の石ころは、流域の地質の多様性を反映して、多種多様です。川原で石をながめていただけで、一日中楽しめます。郷土の地質に思いをはせたり、石の色や形、水切り、石器作りなどで楽しめます。オパールなどの宝石もひそひそしています。おとなも子どもも、川原へ出かけて、知的に健康的にあそびましょう。

うれしい見学とガイドツアー

- 11月15日 日本山岳会メンバー(17名)の博物館ガイドツアー。八昇峠、阿寺の七滝、馬背岩まで案内しました。
- 12月5日 海老小学校1年生4名のかわい(い)見学でした。全校が友の会員です。



春を迎える



大そうじ大会 (平成24年12月22日)

博物館協力隊による、恒例の年末大そうじ大会をおこないました。20名の出動でした。

ふだんできない展示ケースの内側や、バルコニーのふきそうじ。館の周辺の落ち葉や岩石片などの片付けをしていただきました。

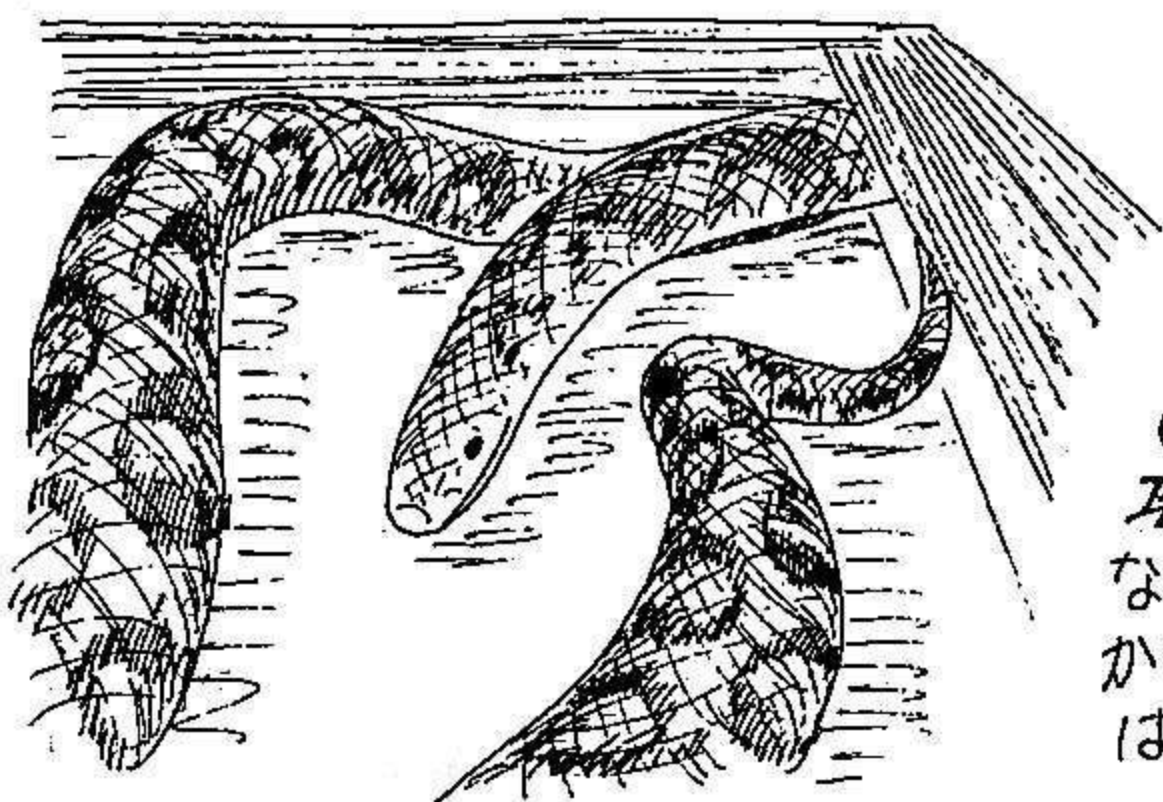
お昼の休憩時には、シシシカ・キノコ汁で温まり、午後めいっはい働いてもらいました。

新春を迎える準備を整えていただき、平成24年も感謝の気持ちで終わりました。

大蛇登場 (平成25年1月4日)

年末の大そうじ大会でのことです。平成25年は巳年、へび年です。なので、へびの展示をしましょうということになりました。

そういえば、大蛇の剥製標本が屋根裏収納室に眠っているはず”です。故原田猪津夫先生がアナコンダの皮を取りよせて苦労して制作したものです。海外のへびですから、鳳来寺山の自然とはなじまないため、箱づめにされ、片づけられたものです。



名号の大カヤ (平成25年3月8日)

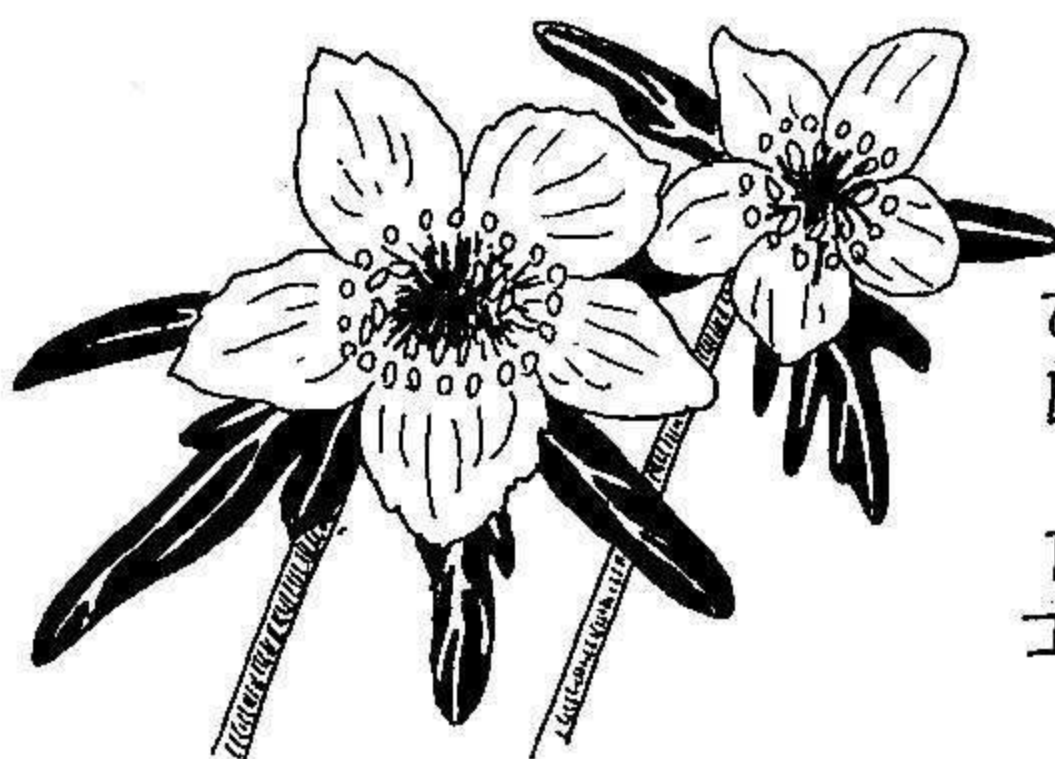
学術委員の小林元男先生からの情報で、山田由乃先生と調査に出かけました。幹が二叉に分かれ、他を圧する巨樹です。

目通り4.87m、樹高15.64mでした。市の天然記念物(島田のカヤ 6.1m、黄柳野のカヤ 5.6m)に次ぐ大きさです。知られざる巨樹、名木が市内にまたありそうです。

スギ花粉降り積る (平成25年3月8日)

今年は昨年と比べて飛散量が多いようです。この日、鳳来寺山一帯では、花粉が降るといった感じでした。車のフロントガラス、博物館の屋上は、きな粉をまき散らしたように黄色く降り積っていました。

セツブンソウ咲く (平成25年2月8日)



まだ八分咲きですが、館の中庭は花ざかりです。この花が咲く頃が高木典雄先生、横山良哲先生の命日です。

今年の春と夏の特別展では、両先生はじめ博物館を支えてくれた学術委員の業績とコレクションを展示します。

本物はどれだ!? (石ころ展 平成25年3月31日まで)

特別展の会場に本物当てコーナーがあります。

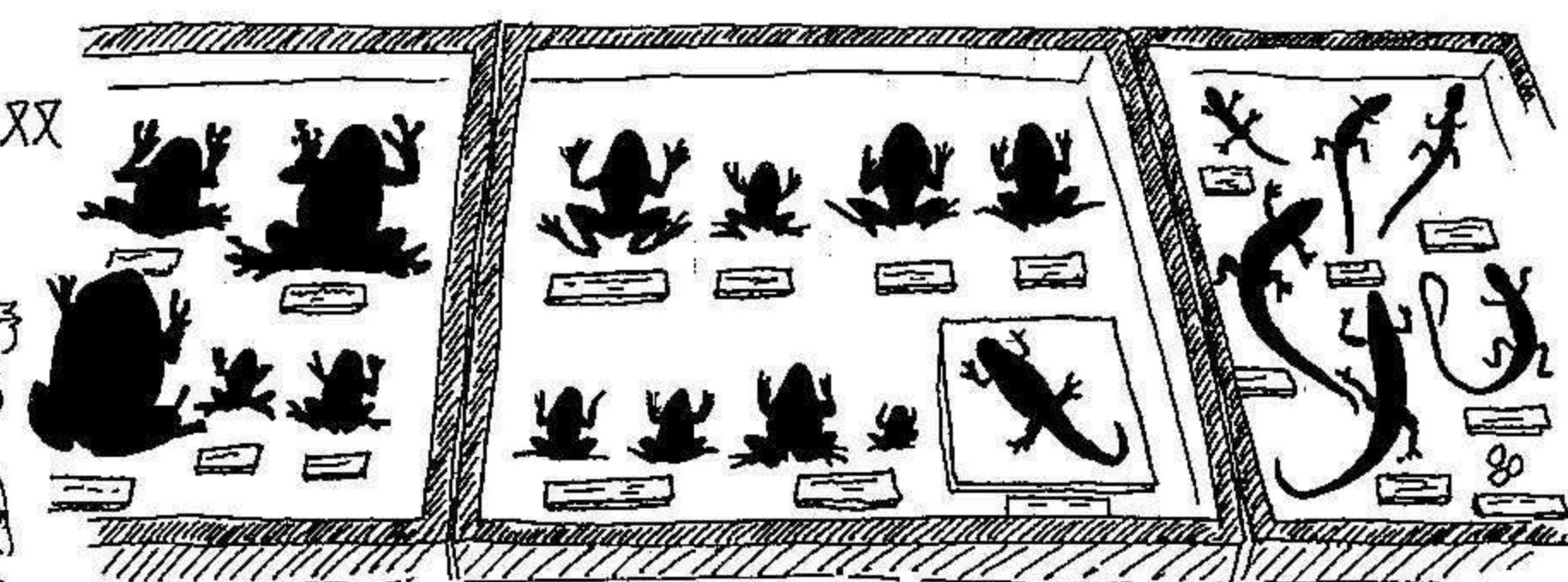
川原の石ころの中には、人工の石ころもあります。コンクリート、瓦、レンガ、アスファルト、陶磁器などのかけらです。見分けるのは、かなり難しく、このコーナーの正解率は10%以下です。



学習会「野鳥を観察して巣箱をつくろう」 (平成25年1月13日、晴れ、29名参加)

午前はバードウォッチング、午後は巣箱づくりを行いました。野鳥観察では、19種を確認できました。今回は上空にクマタカ、ハヤブサ、ノスリが飛来。こんなことはめったにありません。とても幸運な観察会になりました。

巣箱は、自分用とコハズク用の2種類を作りました。コハズク用は鳳来寺山一帯に掛けていきます。



待望?の両生類・爬虫類展示更新 (平成25年1月)

たいていの見学者が避けるように通過するコーナーでした。液浸標本はホルマリンで白くなってしまい、しかも中身はカエルです。へびたちはすでに(平成21年)フリーズドライ標本に更新し、好評?です。今回、トカゲとカエルも凍結乾燥標本(フリーズドライ)にしました。見学者も足を止めてくれるかな?

冬の自然探検は巣箱掛け (平成25年2月24日、雪のち晴れ)

友の会最後の行事、冬の自然探検はコハズク用巣箱を鳳来寺山に設置するという内容になりました。

18名が参加して行いました。前日には、小原、原、澤田さんが先陣を切って高德、作角方面に設置。この日は、行者越、鷹打場、小富士山、馬の背方面に掛けることができました。今度こそは使ってください!コハズクさん♡

